

PAPER CONTAINER FOR LIQUID WITH TRANSPARENT APERTURE

93

Publication number: JP10194273

Publication date: 1998-07-28

Inventor: TANAKA NARIO

Applicant: TANAKA NARIO

Classification:

- International: **B65D5/40; B65D5/52; B65D5/00; B65D5/44; (IPC1-7):**
B65D5/52; B65D5/40

- European:

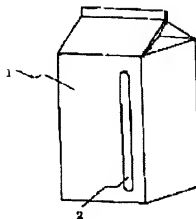
Application number: JP19970032549 19970110

Priority number(s): JP19970032549 19970110

Report a data error here

Abstract of JP10194273

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily confirm the contents or the remaining volume thereof, by forming an aperture with an appropriate size and shape such as rectangle, circle, or ellipse at an appropriate face of a paper container and sticking inflammable transparent paper. **SOLUTION:** The body 1 is made of cardboard or the like. A punched part or an aperture 2 having an appropriate size is formed at an appropriate part of the body. And an inflammable transparent paper which withstands the pressure of the contents in the body and has such a strength that any damage does not bring on transporting it, is stuck on the aperture 2. In this way, the contents and the remaining volume thereof can be easily confirmed. And as it is inflammable, there is no disposal problem.



Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-194273

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月28日

(51) Int.Cl.⁴B 6 5 D 5/52
5/40

識別記号

1 0 1

F I

B 6 5 D 5/52
5/401 0 1 D
A

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平9-32549

(22) 出願日 平成9年(1997) 1月10日

(71) 出願人 591211157

田中 業雄

東京都世田谷区大原2丁目24番25号

(72) 発明者 田中 業雄

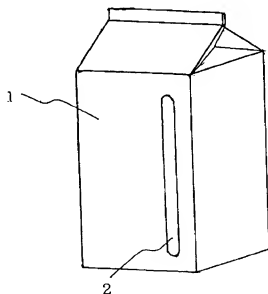
東京都世田谷区大原2丁目24番25号

(54) 【発明の名称】 透明窓のある液体用紙容器

(57) 【要約】

【目 的】 液体食品用容器、いわゆる紙パック容器は不透明な紙製であるため内容物が見えず、残量も判らない。この不都合を解消するための発明である。

【構 成】 紙容器1の適当な部位に窓2を作り、その窓2に可燃性の透明紙3を貼付し、容器内容を識別可能としたことを特長とする液体食品用容器である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 液体用紙容器1に適当な大きさの、透明紙3を貼った窓2を作り、容器内容を識別可能としたことを特長とする液体食品用紙容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、コーヒー・ジュース・醤油・酒 その他、多くの液体食品容器にもちいる発明である。

【0002】

【従来の技術】既存の液体用紙容器1は、密封型である。既存の物で小さな穴を開けた本発明に似た物も在るが、その目的はストローを挿入し吸引するための物で、本発明とは主旨が全く異なるものである。密封型は内容を知見することが出来ない。また飲用或は使用を中断し再度飲用又は使用をしようとするとき、残量を確認することが出来ず、まことに不都合であるので本発明となった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】既存のものは次のような欠点がある。

(イ) 不透明の紙で密封してあるので、内容物を見ることができない。

(ロ) 内容物の排出を中断したとき、残量を確認することが出来ない。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の問題を解決するために、紙容器の適当な面に、適当な大きさの長方形又は円・だ円など適当な形の窓2を開け、可燃性透明紙を貼付する。本発明は、以上の構成からなるものである。

【0005】

【作用】食品が充填後密封されても、透明窓により内容物又は残量を容易に確認することができる。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。本体1の材質は従来と同じ厚紙性の物を用い、全体形状も又従来品と同一性を有している。本体1の適当な部分に、適当な大きさの打ち抜き部、即ち窓2を作る。窓2に、本体内容物の圧力に耐え、輸送に破損を生じない強度をもつ可燃性透明紙3を貼付する。

【0007】

【発明の効果】従来品と比べて内容物の知見と、残量の確認が容易である。また従来品他種に、透明樹脂製品が在るが不燃性のため廃棄物処理に問題が多く、可燃性紙容器が活用される。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の斜視図である。

【図2】本発明の断面図である。

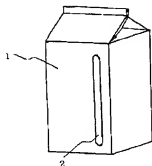
【符号の説明】

1は紙容器本体

2は本体に開けた窓

3は可燃性透明紙

【図1】



【図2】

